



# 渡良瀬遊水池をラムサール条約湿地に

## 奥日光の湿原や尾瀬に続いて 渡良瀬遊水池の条約登録を実現させましょう

2005年11月ウガンダのカンパラで開催された第9回ラムサール条約締約国会議において、日本は奥日光の湿原や尾瀬をはじめ20カ所を追加登録し、日本のラムサール条約湿地は33カ所になりました。

ラムサール条約湿地は、国際的に重要な湿地として条約に登録されるもので、締約国は、登録された条約湿地について、その保全と賢明な利用の義務を負います。

栃木、群馬、茨城、埼玉の4県にまたがる渡良瀬遊水池は日本最大の遊水池で、釧路湿原に次ぐ全国第2位の広さのヨシ原を有しています。鳥に限らず、昆虫、植物、魚類の絶滅危惧種が数多く生息して生物多様性に富み、国際的に重要な湿地としての要件を満たす湿地です。

遊水池としての治水機能を保ちながら、奥日光の湿原や尾瀬に勝るとも劣らない貴重な自然環境を有する渡良瀬遊水池を将来にわたって確実に保全していくためには、一日も早くラムサール条約への登録を実現させることが必要です。

渡良瀬遊水池の一角を占める小山市は、世界最大のサンゴ礁群グレート・バリア・リーフや世界最古の熱帯雨林という二つの世界自然遺産の玄関口として有名なオーストラリアのケアンズ市と姉妹都市になりました。

世界有数の自然環境を保全しているケアンズ市に学んで、私たちも国際的に重要な湿地である渡良瀬遊水池を保全し、渡良瀬遊水池を通じた自然保護の国際交流を推進していきましょう。

### 渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地にする会

取り扱い団体

「渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地にする会」は、渡良瀬遊水池のラムサール条約登録を目指して署名活動を行っている団体によって構成されています。



大群で飛来したガン



コヨシキリ朝霧に歌う



珍しいタチスミレ



ヨシ焼きで炎上



可憐なサクラソウ



ヨシ刈り



幽玄な朝霧



新緑の谷中村遺跡

写真提供/堀内 洋助氏